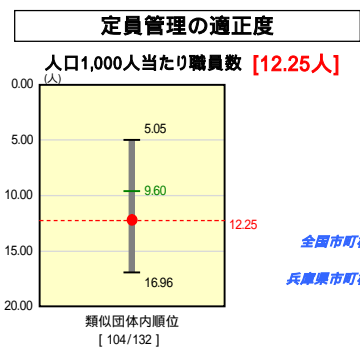
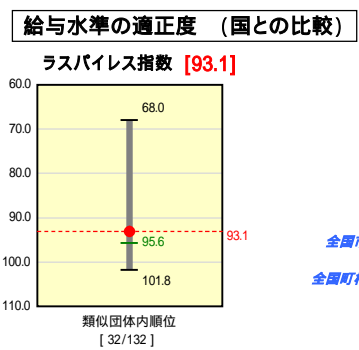
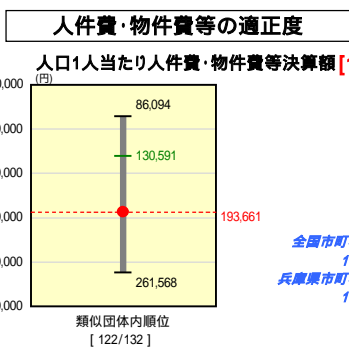
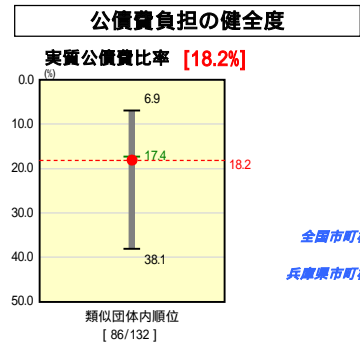
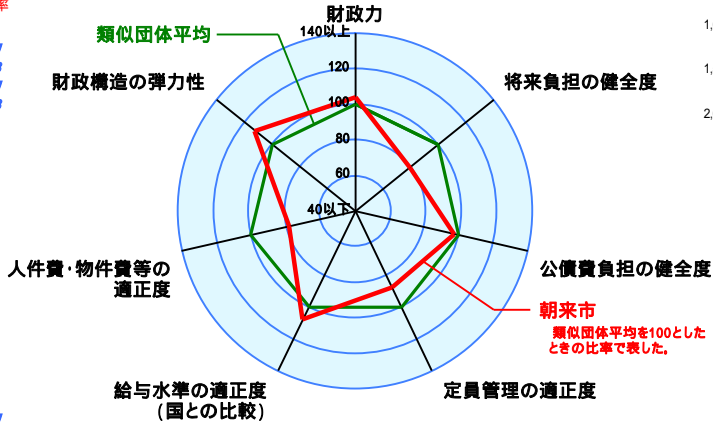
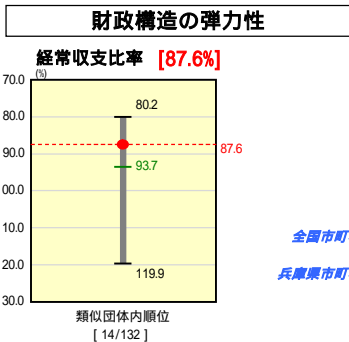
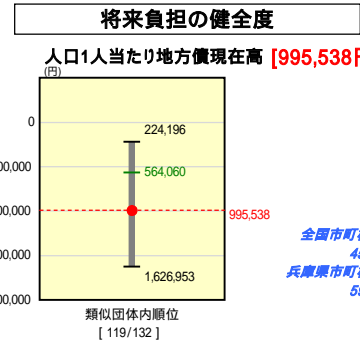
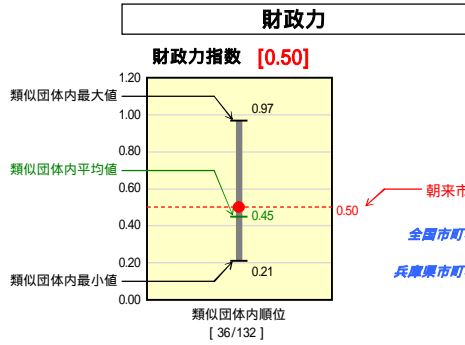


市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

兵庫県 朝来市

人口	35,269	人(H19.3.31現在)
面積	402.98	km ²
歳入総額	23,945,177	千円
歳出総額	23,573,737	千円
歳出総額	282,823	千円



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

財政力指数
個人・法人関係の税収の伸びが見られた反面、固定資産税が減少となったが、類似団体平均と比較すれば市民税・固定資産税ともに高く、財政力指数は0.5を上回っている。今後も徴収専門員の配置、担当職員の増員、夜間徴収の実施により、市税の徴収強化(特に滞納分)による歳入確保、歳出の徹底的な見直しと施策の重点化に努めることにより、財政の健全化を図る。

経常収支比率
公債費は増加傾向にあるが、職員不補充による人件費の減や物件費の抑制に努めた結果、経常収支比率は前年度とほぼ横ばいで類似団体平均に比べ6.1ポイント弾力性がある。これは、徴収専門員の配置、担当職員の増員、夜間徴収の実施による効果であり、併せて定員適正化計画や行政改革の取組みを通じた経常経費の削減により経常収支比率の維持に努めたい。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額
本市は合併団体で、職員の不補充など職員数削減に努めているが、人口に対する職員数が類似団体平均と比べて多く、人件費が多い状況である。また、物件費は、類似する施設を複数有し、運営・維持管理に要する資金、委託料などが経費が高まっているため、今後は、定員適正化計画や行政改革の取組みを進めながらコストの低減を図りたい。

人口一人あたり地方債現在高
合併前に文化施設等を複数整備し、その財源を地方債に依存したため、類似団体平均の1.76倍と大きく上回っている。本市では建設事業の見直しや事業費の抑制を進めており、新規地方債の発行抑制による地方債残高の減少に努めたい。

実質公債費比率
公債費が増加傾向にあるため、実質公債費比率の悪化を見据え平成18年度に約10.6億円の繰上償還を実施したが、実質公債費比率の改善に努めるため、今後も繰上償還や借換え、建設事業の見直しによる地方債発行の抑制など進めたい。

人口1,000人当たり職員数
合併に伴い一部事務組合職員が加わったため、類似団体平均と比べ2.65人多い。合併後、行政改革担当部署の設置、勤労退職制度の活用など適正な定員管理に取り組んでいる。このほか、組織・事務事業の見直し、職員採用の抑制など定員適正化計画(合併後10年で132人純減)を達成するよう、積極的な取組みを行っていく。(合併後2年で36人減)

ラスパイレス指数
類似団体平均を2.5ポイント下回っているが、今年度職員構成の変動等により昨年に比べ0.5上昇し、93.1となつて